

動画で情報を発信することで効果の確認や
指導改善まで「生活を支える支援」がしやすい環境に



際、どんな生活に戻りたいかインタビューを行い、生活環境の情報などと併せて動画で共有することにより目標が立てやすくなり、介護の質も自立支援に向けたものに変わります。また、なにより患者さん自身の意欲が高まることにもつながります。

退院をされた後でも、通所リハの進捗を動画で共有すれば、病院のリハビリスタッフが効果を確認できます。また、メニューの改善や指導を動画で返すことができるようになります。

「地域包括同意」により
滋賀県をひとつの病院に

びわ湖あさがおネットには患者の情報日々集まっています。患者の同意を得ることで情報は一元化され、県内すべての病・診・介護で活用できるようになります。

また、生活を支える医療の条件ともいえる「どう生き、どう死にたいか」の意志確認も共有できることにより、患者に寄り沿ったACP（アドバンス・ケア・プランニング）を進めることが可能となります。

さらに、天災などでかかりつけの診療所が被害を受けたとしても、県内であれば、どこの病院のどの医師でも治療を継続することができ、結果として災害に強い地域になります。

現在の登録者は、4万2千人。10万人をひとつの目標とし、人数の増加に比例して効果も高まっています。滋賀県をひとつの病院へ。医療費を削減しながら県民一人ひとりのQOL、QODを高める。それがこのシステムの意義だと考えています。

講演2

地域医療×ソーシャルキャピタル

「医療者主体の医療づくり」から「地域主体の健康まちづくり」へ

講師 高浜町国民健康保険和田診療所 医師
福井大学医学部地域プライマリケア講座 教授

井階 友貴氏

自由で対等なつながりで
人と地域が健康になる

ソーシャル・キャピタル（社会関係資本。以下SC）とは、人々の結束やつながりから生まれる信頼関係や社会参加など、地域社会との関係性によってもたらされる効果のことを指します。

いかなる影響を与えています。だから、健康的な人と友だちになれば自身も健康になることができ、また健康な人が増えれば、地域全体が健康になります。上下関係やお金の負担が厳しい、垂直型のつながりはむしろ逆効果につながるといっても研究からわかっています。

ソーシャル・キャピタルとは

- ・社会関係資本
- ・人々の協調、協力関係を促進し、社会を円滑・効率的に機能させる要素の集合概念
- ・社会における人々の結束により得られるもの
- ・「信頼」「社会参加」「つきあい・交流」

